

令和5年度 第7回香美市教育振興基本計画検討委員会

日時 令和5年10月25日(水) 18:00~20:00
場所 香美市役所 3階会議室
出席 委員14名中11名参加
傍聴者 0名

内容

1 開会

【議題】

- ① 次期教育振興基本計画骨子案
- ② その他

2 閉会

開会

14人中11人の出席

教育長あいさつ

白川教育長 皆さま、こんばんは。朝夕は少し肌寒さを感じるようになってまいりまして、いよいよ本格的な秋の入り口に立ったかなという非常にすがすがしい気候となってまいりました。皆さま方には日ごろより香美市教育振興にご協力、ご支援賜り心から感謝を申し上げます。気候もよくなりまして、皆さま方におかれましては何かとまたお忙しい中のことと存じ上げますけれども、数えて第7回香美市教育振興基本計画検討委員会にご参集いただきまして本当にありがとうございます。

この香美市の教育振興基本計画は平成26年度から令和5年度までの10年間を中間で一度見直しまして後期計画、これは平成31年度から令和5年度までの施策といたしまして、これまで取り組んできたところでございます。その取り組みの成果と課題をまずはご協議をいただきました。ご意見もたくさんいただいたところでございました。それをベースに次年度から10年間先を見通す、これは非常に難しいと思います。10年の間には教育の在り様も社会の在り様も大きく変わっているだろうということは想像できますけれども、一体どのように変わっていくのかということは、なかなか見当がつかないという状況の中の香美市の次期振興基本計画の策定となっておりますところでございます。

まだ始まってはおりませんが、次年度から10年間先ということではございますけれども、恐らくこの計画も途中では、5年間と考えておりますが、もしかしたら3年経った辺りで見直しをするという必要性も出てくる可能性

もあるかなというようなことも考えたりしながら、この基本計画の施策に取り掛かっておるところでございます。本日はそうしました次期教育振興基本計画の新たな施策の全体体系をご審議いただいておりますので、一定のまとまりのところに来たかなということで本日ご提案をさせていただいております。

前回かなり広げまして、たくさんのご意見をいただきましたので、一度もう少しぎゅっと絞った形で全体体系をお示しさせていただいたところがございます。本日はその全体体系につきまして、一定の方向性をご提示させていただいたことに対しまして、ご意見をいただき、改善を加えていきたい、よりよいものにしていくことで、香美市の子どもたち、それから生涯学び続けるまちとしての活気ある羅針盤となるようなものにしていきたいと考えておるところでございますので、ご協力のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 では会議に早速入りたいと思います。本検討委員会設置要綱第6条において会議の議長は委員長が務めると規定されておりますので、中村委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

中村委員長 それでは議題の方をご覧ください。早速ですが議題1「次期教育振興基本計画の骨子案」について事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 本日は、まず教育長から次期教育振興基本計画の目的等の概要をご説明させていただきます。次に、お配りしております3番の横長の資料を使いまして、担当者から計画内容について、ご説明させていただきます。その後に委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思います。

事務局説明

中村委員長 それではまず、ご意見、ご質問等から受け付けたいと思います。よろしくお願いいたします。

上村委員 ちょっと質問なのですが、指標はいつの時期とか、振興基本計画自体は10年物というところで前期、後期とあるんですけど、ただ質問内容は全国の学力調査の学校質問紙も内容が変わっていったりするところもあって、そこの辺りは修正とかというのはこれから先で出てこようかと思いますが、めどとしてどれぐらいの時期というものを考えているものなのかというところの質問です。

事務局 こちらの方としましては5年後の姿として設定をさせていただいております。おっしゃられるとおり、学力調査等の質問紙につきましては内容も変わってきますので、その段階で再度見直しをし、次の5年後というところで再度設定をしたいと考えています。

中村委員長 確認ですけど、ここで書いてある指標の達成の度合いについて、大体5年後をまず、めどにしているということですか、全て。

事務局 はい、そのとおりです。

白川教育長 このデータ結果というのは毎年得られるものでございますので、5年後の結果を一つの成果の区切りとしてしたいということでございます。けれども、1年ごとにこの結果は返ってきますので、その時点での都度都度の見直しはしていく必要があるというふうに考えておるところではございます。

中村委員長 質問ではなくて微細なところなんですけど、総合的な学習の時間の表現が何か所かあるんですけど、総合的な学習・探求の時間に変えなくていいですか。

事務局 すみません、どちらの項目になりますか。

中村委員長 例えば、ふるさと教育の推進のところですけども。

事務局 中村教授がおっしゃられているのは、地域を核とした生活・総合的な学習の時間というところが探求の時間に変えなくていいかということでしょうか。

中村委員長 指標の方にこの表記でいいのだったら小中学校で統一ということであれば、これでいいんだと思うんですけど。

事務局 生活・総合的な学習の時間というものが探求の過程を踏んでいるというところで、この時間を活用して地域の中で学びを充実させたいというところで示させていただいておりますがいかがでしょうか。

中村委員長 ご意見がないようでしたら。

事務局 もし探求という言葉を加えるのでありましたら、生活・総合的な学習の時間における探求の学びの充実とかいう形もできるのかなと思いますけれども。

中村委員長 後ろに入っているから前にも何らかの形で入れた方がいいのかとちょっと思っただけなんですけど。

事務局 ありがとうございます。

福田委員 これ自体の完成度はどうなのですかね。と思うのは、もっと精査しないといけないなと思うところもあるはあるんですけど。今日はとりあえず一回ここまでいったから単に見てというなら、その目線で見れますし、ならこんなことを追加したらいいということも言いますし、むしろこうの方がいいのではないかと根本のところも言いますけど、これがもうほぼ完成に近いものであるのなら、ご無理のない範囲でしか言わないでおこうかなと思ったりもしているわけです。言った方がいいですか。

これで10年後ですよ。10年後に郷土を愛し、探求的に学び、未来を創る人ができているかどうかという根本的なところに逆に指標までいくのかと。ここまでいって、この指標とかを我々は見ているら、これをやって未来を創る人なのかと思うわけですよ。指標は分かるんです、僕はもともと指標が嫌いな人なので、県からも大学からも言われます。必要なものにはつくります、分かるものにはつくります、単純なものには付けます。でもこんな大きな話のときに指標はそぐわないと僕は思っている方なんです。なので逆に指標まで一気に説

明されればされるほど、この指標で 66.7%になったら、そういう人ができているのかとってしまうんですね。

これは第2期ですよ。では1期でどこまでできているのというのがまずあって、計画策定の何とかについてとか本編の頭に割と今回のストーリーを書いてくれているわけですよ。1回目は「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」が最初だったと。それを後期のところで「よってたかって教育」をぶち込むことで、もうちょっとそれを具現化していった。では今回5年で見直すとしたら3期目、ゴール4期目としたときに、この未来を創る人の育成という、ここが出てきたときに、教育というのは一気に答えが出るものではないし、まちづくりなんか息の長いものだと思うのですが、指標とかが入ってくるとすぐ結果を求められるんですね。結果が求められると、こっちの方ばかり見てしまって、どんな人をつくるのだったか、山田は、香北は、物部はという話になるんですよ。そこが僕の中ではしっくりこなくて、10年間で何をどうするというものももう少し見えやすい方がいいなと、ぼやっとなんですよ。それが頭の部分に書き切ってもらっても、今回はこういう目的でこれをやるんですけども構わないんですけど、そのメッセージがないと腹に入らないんですよ。

これはどこまでの方がどういうふうに取り組むのか。教育関係者だけに取り組むのであれば、今日ご出席の教育関係者の皆さんがこういうことでと理解できればいいんですけど、僕は別に小中高に関わっている関係者ではないので分からない言葉もいっぱいあるし、これがこうなったらどうなるのだろうというものもある。ものすごく分かりやすいものもあるんですよ。早寝早起き、朝ごはんはちゃんとしましょうねとかいうのはすごく分かるし、何か僕の中ではすっきりこない、腹に入らないというか。一市民である私が腹に入らなくてよければ、専門家の皆さんがよければ、これはこれで成立しているのだと思うんです。私に関係なければですけど、という感じで根本の話をしてしまって混ぜかえすような感じなんですけど、すぽーんと一言分かりやすい何かが出てくれば多分つながるんですけど。

白川教育長
福田委員

何でしょう。

そこなんですけど、いろいろ考えてこの図なのかなと思いつつ、でもこの図でも言葉が走っているし、何かなというところは思うところなんですけど。ぼんと腹に入って、そのためにこうするからというのであればすごく分かりやすいのになと思う。あまり気取らなくていいのではないかな。そもそも僕はこんな堅苦しいことを国に言われて、県がやって、県に言われて市がやるという、こんなことこっちはあるかと僕は思っている方なので、もっと市はシンプルに本当にあるべき姿をぼんと書けばいいとは思っているんですけど、それをやらなかったら交付税の話とか何かいっぱい出てくるので、それを承知の上でこれをつくった上で一つこうですというのを見せるものがあれば、それはそれで腹へ入れられるのかなと。プラスアルファになるかもしれませんが。それだったら

ここについては別にみんなが大体、全国平均になっていけばいいのじゃないというなら、それでもいいですけど。というような感じを感じています。

白川教育長

大変ありがたいご意見、ご指摘ありがとうございます。そのとおりだと私も思っています。指標を今回入れましょうという話があつて入れたのでそういうことなんですけれども、最初に申し上げるべきところでしたが、この基本計画は市民の皆さんと、もちろん直接子どもたちの保育ですとか、教育に携わる職員、それに携わる先生方に向けたものでございますので、今ご指摘いただいた点は非常に重要なポイントだと思います。骨子を概要版をつくるときに、そういったことがはっきり分かるように盛り込む必要があると思います。もう既にそういう、もう少し分かりやすくしてほしいというご指摘はいただいています。

中村委員長

ご意見はいただいて、まとめるときに多分、全体構造を一言で表しているようなスローガンみたいなものがきちっとあればいいのかなと思うんですけど、教育長が後で言われると思うのですが、「よってたかって教育」みたいなスローガンになると思うのですが、全員参加で協働でどういうふうにするかというようなことをイメージするようなスローガンができればいいので、それは教育委員会で考えている案を提示していただくというのが一番いいと思うんですけど、ご意見いただければいいと思うんですけど、やっぱりたたき台が必要ですから。

それと、指標に関してはもちろん細かいことでいうと、全体の目標とか目的が達成できなくなったり、指標の方に目が行くというのは、ご意見もつともなんですけど、うまくいっているということを確認した上で、さらに取り組みを強化するためにも達成している満足度を上げたり、組織全体が関係者とかも協働作業をしていて目標が達成できているというビジョンを共有するような確証するものがあると思うので、それには数値もあってもいいのかなと。その場合はやっぱり、この数値が出たことによって目指すべき方向性に教育全体が香美市はこういうふうになっているということが、みんなの共有できるような概念を入れていただくといいかなとちょっと思います。

例えば図書館の運営協議会とかに入っていると、来られる人はすごく増えて、1年経って活性化しているんですけど、市全体の市民の人口構造とか、年齢構成からいうと貸出数があまり伸びていないので、本当に教養型の市になっていないのではないかと。まだ本をみんなあまり読んでいなくて、ただ新しいから来ているだけというようなところもあるので、では教養のある市ということであれば、これぐらいの冊数は毎年貸し出して、突破して、市民1人当たりでこれぐらいの本を読んでいただきたいというのがあれば、指標の中には入っていないんですけど、そういうのをきちっと入れて、新しく取り組んでいる作業が共有できるようなビジョンを入れたらどうかなと思いますね。この辺りのところは行政とか運営協議会の方がどういうふうにか考えるかですけど、私は今言ったような意味でいうと、入った方がいいのではないのかなと思います。本当は幼児期からお年寄りまできちんとそういうのが届いているという指

標がここで分かって、皆さんがやる気になっているというのが分かるような構造にしていただけるといいのかなというふうに思います。

福田委員

このまま走る前提で幾つか質問をさせていただいていいですか。【協働】のところで「保育士を加配し家庭支援を行う」というのがあります。公立6園中、専任2園、兼任4園、令和4年も一緒なんですよ。これで加配したと言えるのか、さらなる加配なのか、これは現状維持なんですよ。これはどうなのかなというのはちょっと、令和4年と一緒の目標をさらにやるということが気になりました。

それと、【創造】イノベーションの主な施策の③持続可能な社会とはどう定義しているのですか。ここだけ具体の言葉がないんですよ。これは何ですか、それに対応した教育とは何ですかというのが見えないので持続可能な社会というものをちゃんと定義していく必要、言葉を変える必要がある。

それと、その下のウェルビーイングの②の指標ですけど、「市民の人権意識が高まり互いの立場や思いを尊重できるようになる」というのは指標にならないので、これは要らなくて、後ろの方が指標ではないですかね。これはむしろ主な施策とほぼ同じ言葉なので、ここに言葉は要らないのではないかなというところ。

(3)の①山田高校さん、山田特別支援学校さん、工科大との交流というのは全然OKなんですけど、ここの中の指標で小中学校への学習支援参加として山田高と工科大に目標を課すんですかというところなんです。参加するのは参加すると思うんですけど、それが指標なのかと。あなたたちに指標を課すからと言えば多分、大学側としては困ると思うので、ここはこの表現は考えるべきかなとは思っています。以上です。

事務局

まず、一番最初にご指摘をいただきました、特別な支援を必要とする子どもや家庭への専門的な支援というところで加配の保育士の関係ですけども、非常に内容が志の低いような感じになっておりますけれども、この専任を置いている園というのは200人規模の大きい園ということで、兼任を置いているところはそれより少ない100人弱の規模、もしくは50人とか、一番少ないところは5人ぐらいの保育がありますけれども、これが例えば1園増やすとか、専任で置くところ、これは予算を伴うものでございますが、実際に現実的なところで業務の中とか、市の財政の今の自分たちの感覚の問題とかを感じた中で、こういう現状維持というところが妥当ではないかというふうに考えたところの現時点の指標になっています。この現状維持の中で職員が研修で職員の能力を高めながら、支援の中身を高めていくというところを大事にしていきたいというところで、単純に例えば1園専任を増やすとかいうことも考えたりもしたのですけれども実際できる、蓋然性の高いものとしてこういう判断で今のところいるというところでございます。

福田委員
事務局

これは今も加配状態にあるということですよ。
はい、そうです。

福田委員 現状を何とかキープしたいということなんですね。
事務局 そうです。

福田委員 逆にここで我々は応援するために3と3にしておけばと、この委員会でこう決まりました、皆さんこの教育のみんなが言っているのと使ってもらっても構わないと思うんですけど、現状維持が5年後も10年後も精一杯ということですねということなんです。5年間と言われたら。それが4年と同じでいいのかというところが、ここにはあるんですけど、事情は分かります。実務をやらないといけない我々の立場として、言ってもねと。そしたら、ここの指標を変えたらと思います。

事務局 ありがとうございます。また考えてみます。

中村委員長 ちょっと加えて今の質問なんですけど、今の5歳児が香美市の場合は162人で、ゼロ歳児は106人ですよ。56名も少なくなるので、このまま5年後にこの数値といたら、かなりのゼロ歳児から5歳児の数が減ってしまって、ここ5年間でも130人ぐらい減っているわけですから。ということは130人ぐらい減った中で、この加配をするという数値になっているから、数学的に考えると頑張っているということなんだと私は判断したから、かなり努力しているんだなと思ったんですけど。130人も少なくなると、この加配が本当に可能なんですか。

事務局 そこを努力で何とか。

中村委員長 統計でも明らかになっていますけど、今年度の新生児の数は去年に比べてマイナス4万5,000人ぐらいになるだろうというふうに言われていますよね。72~3万を切るかもしれないと言われているんですけど、それは市町村に当てはめると今ぐらいの数が減ることですよ。私はあまり楽観視していないんですけど政策は全然打ってないし、子育て世代の方が軽くなるような状況にもないので、このまま減り続けるのではないかと思っているんで、そのことは想定した上で計画を考えた方がいいのではないかとこのように思っていますし、逆にいうと同時に何か増えるような政策を入れておかないと達成できないのではないかとこのように思っています。かなり心配です。県全体の人口の構造からいっても非常にゼロ歳児のところがいびつになってしまっているんで。

福田委員 確かにその状況で維持していたら、これはもう素晴らしい。分かりました。そういう理解をいたしました。

山下委員 今、班長がおっしゃってくださったように200人規模の保育園で専任を置いてもらっているのですが、確かに支援の要る家庭は多いです。でも小さい園でじゃあいないのかといたら、そんなこともないですよ。小さいは小さいなりに少ない人数の保育士で支援のことも職員一人がやっていました。子どもも減っているけど保育士もずっと年間、不足状態でやっているじゃないですか。保育士養成学校で実習に来たり、中学生も体験に来て保育園の仕事を体験したり、絶対保育士になりたいですと言われたとき、頑張っただけとだけ、実際問題、採用試験にもあまりたくさんは来てもらえないし。支援をしな

いといけない子どもたくさんいるんだけれども、普通にクラス担任でその運営も難しいような状態なので、トータルで考えたら専任でいけばもちろんいいのですが、なかなかそこが難しいのではないかなというふうには思います。

福田委員 今、保育園の先生の定員は現状として埋まっているのですか。小学校とかは足りないといって追加募集とかしているじゃないですか。

白川教育長 追加しますけれども。

事務局 保育園も去年度は2人募集して1人しか採用できていない状況です。今年もまた募集をかけているんですけども、今年は今のところゼロになっています。去年の分と今年の方とを足して募集するんですけども、今年度は今ゼロの状態を追加で募集をするような状況になっています。

福田委員 加配とかいう問題どころではない、定員割れしているのではないかという話ではないのですか。

事務局 そこは一応、国の基準には合致したものは確保しています。

中村委員長 根本的な問題を解決しないとちょっと、もう今のままではちぐはぐになりますね、小学校も。

福田委員 分かりました。あと、持続可能な社会、ここだけ本当に何を指すのかがないと、それで出てきているのが多様な文化への理解と外国語教育の充実が出てくるんですよ。持続可能な社会とは外国語教育の充実だったんだと僕は初めて知ったんですけど、ここが妙に違うような気がして、そこは言葉は何か足した方がいいとは思っています。

事務局 ご指摘いただいて、ちぐはぐなところがはっきりしてきました。ここはまた訂正して12月には提案させていただきます。

市原委員 ちょっと聞き逃したのかもしれないかもしれませんが、理念の1枚目と、3ページ、4ページが若干違うんですね。3、4ページは探求心の育成というのが目指すところになっているんですけども、1枚目は手段になっているんですけども、これはどちらかに統一されるということによろしいでしょうか。

事務局 1枚目のところが変更するところです。

市原委員 基本計画のコアがやっぱり探求かなというふうに思うのですけれども、本校も非常に探究というところでは苦戦をしています。というのも、認知・認識というところで、探求の定義というところは恐らくこの集まっている皆さんばらばらだったんですね。そこは一定、香美市の市民も含めて探求とは一体何かという分かりやすい表現で表したらいいかなと。ちょっとAIに探求を考えさせているんですけど、なかなかしっくりくるような言葉が見つかっていなくて、頭をひねらないといけないのかなというふうに考えているところです。

他の箇所でも【創造】の4ページ目なんですけど、この目標が新たな価値を創造する教育の展開というところで、新たな価値というところを一定、社会的価値を含むというふうな流れでいったら、方針の(2)の市民一人一人のウェルビーイングというところもいけるのかなというふうに拡大解釈なんかもして、自分の頭を整理しているわけですけども、この1、2、3の流れでいったら、

この市民一人一人のウェルビーイングというのは自分の中ではまだ腑に落ちていなくて、果たしてこの表現でいいのかどうかということも含めて検討が必要かなというところかなと思いました。

福田委員 方針とかに※マークが付かないといけない方針というのは、市民の皆さんが腹に持ちますかね。

白川教育長 そこです。そこは私も。

福田委員 ウェルビーイングは聞いたことあったけど、何だったかと思ったら、これを見たら書いているので、そうか、心身の健康な状態や健やかさ、生活の質全体の豊かさ、人や社会等の関係性、生活の満足度等、多様な側面から幸福を捉える概念ということが読んで分かりましたけど、何かもっとないのかなとは思いました。イノベーションは割と市民権を得てきた言葉になりつつありますけど。

白川教育長 そこはやはり市民の皆さんにもうちよつとすんと分かっていただけけるような言葉に変えていく必要があるというふうに考えていますので、非常にありがたいご意見です。

福田委員 でも国が今回これを使っているんですね。

白川教育長 そうなんです。イノベーションとウェルビーイングはもう乱発していますので、ついここへ置いてはみたんですけども、やはり香美市にはちょっとそぐわないなと内心想いながら出させていただいているところですので、どうでしょうか。あまりピンと来ませんよね。

福田委員 この言葉の意味は分かるんですよ。そうでないと、幸福の実現と書いてあるのはどういうことになりますしね。国が使っているのならいいのかもしれないけど、これだったら何でも書けますね。

市原委員 流行り言葉でエージェンシーという言葉なんかもありますけど。

福田委員 余計に分からなくなりますね。

上島委員 今、我々は放課後児童クラブをやっているんですけども、結構その利用者数というのは年々、満員御礼というような状況がほとんどの学校であっておまして、夏休みなんかはさらに日中が長くなるので余計ニーズがあったりとかするんですけども、学園都市・香美市という割に児童館とか、どこかに属さないといけないものばかりで気軽に行けるような施設というのがなかったりするんで、子育てを大事にしている市として、そういったところに視点とかいうのは今後はないのかなというのがまず1つ。

あと一時、知事なんか放課後子ども教室に力を入れようみたいな感じで言っていてやっていたけれども、放課後子ども教室というのが開催されている小学校というのは実はあまり多くはなくて、この児童クラブが待機児童が出ている学校が今2校あるんですけども、そういったところのお子さんがもっと放課後子ども教室がしっかりと拡充されていたら、一定の時間帯まではそこで見てもらえるとか、そこで学習ができるとかというような措置ができると思うので、そういったところにも視点を置いておくと、香美市は子育てしやすいま

ちになっていくのではないかなというふうには思うので、そういったところも考えてみていただいたらいいのかなと。この2つのワードが全然出ていなかったのも、ちょっと気になりました。

福田委員 今の幼稚園は延長保育みたいなのはありますよね。そういう仕組みは小学校にはないということですか。それを放課後児童クラブが全部請け負ってくれているということですか。

白川教育長 そうですね。

事務局 あと、学童ですね。

福田委員 学童は今辞めているんですか。学童がこの形に変わったということですね。

白川教育長 はい。

福田委員 よく子どもたちがたまるところはないですよ。逆にあると怖いから。

白川教育長 公民館で努力はしているんですけど、ちょっと人数は増えたんですかね。

事務局 ちょっとは増えました。今、月に2回、放課後、子どもを預けてもらっているんですけど4人ずつぐらいは来てくれていると聞いていますけど、月に2回ですので、毎日とかいうわけにもいかないのです。

中村委員長 図書館の開館時間を延ばしたんですけど、そこにその時間帯の来られている子どもの数とかいうのは増えていないんですか。

事務局 小学生はそんなに増えていないと思いますけど、中学生とか高校生は増えていると思います。中学生は特に増えていると思います。

福田委員 放課後児童クラブの待機児童というのも何か。

上島委員 これでも一応増えているんです。山田小学校も1クラブ増設されて今3つになって、楠目小学校も1つから2つになっているんですけど、その両方で待機児童、45人定員で今50人預かっていたりとかいう状況にはなっていて、さらにそれに待機児童がいるというところなんです。

福田委員 すごいニーズがあるんですね。子どもたちが行きたい、楽しい組織を作り上げたという話ですか。やっぱり親の都合ですかね。

上島委員 共働き世帯とかいうワードが昔は結構レアな感じで扱われていましたが、それがもうスタンダードな世の中になっていて、共働き世帯が普通ですよ、だから子どもは放課後、おじいちゃん、おばあちゃんがない限り親は見れません。例えば県外から移住とか他の市から来ている世帯なんかは、おじいちゃん、おばあちゃんがないから子ども見守る環境が必要だということで、放課後児童クラブというのが、南国市なんかは大体6時とか、遅くても6時半ぐらいで、香美市は19時まで預かっているので比較的安全に見守りが全国的に見てもしっかりしている市ではあります。

福田委員 7時になったらお迎えに来れるんですね。

中村委員長 児童の数が順調に減っているわけではなくて、令和2年、3年とかは30人ずつぐらい増えているんですよ。小学校の総定員が60人ぐらい増えているというのがあって凸凹しているわけです。そうすると最初に決めた定員からすると、ある年は60人ぐらい増えてしまって今のような状況が生まれるという

ことがあるので、前後を想定したシステムで円滑に運営するというような構造にはなっていないんですね。その辺が難しいところなんです。だけど5年ごとで見ると60人ずつぐらい子どもの数は毎年減っていつているんです。ある年は急に増えたりするのでということなんですよね。今ちょうど小学校の数は増えているというのがデータとして出ていますけど、ただ全体で、ゼロ歳児まででいうと、かなり減っているんで、その辺が難しいところですね。

今の言われたご意見は何らかの形で表現を変えて、ここに入れていただいたらいいのかなというふうに思います。そうでないと、幼児保育から全ての各教育機関がそろって子育てのしやすいまちというふうにはならないと思います。その辺をどういうふうに表現するか考えていただきたいと思います。

白川教育長
中村委員長

はい、必要なことだと思います。

それから先ほどご意見出たんですけど、山田高校から工科大まで書かれてある協力体制とか、協働教育のここをどうするかなんですけど、書かれてある内容が狭いので保幼小中と高校とか、特別支援学校とか、大学との連携みたいなことだけで書かれているので、もうちょっと幅広く、この市の特徴のあるような連携の仕方に関する、何にでも解釈できるような表現を入れておいたら、評価も割としやすく、幼保から大学院まで持っているまちというようなイメージが出るのではないのでしょうかね。教育機関が思われているようなイメージが市民に伝わりやすくなるような表現というんですかね。確かに、この協働の仕方だけだとちょっと狭いし、どちらかといえば幼稚園に出掛けていくみたいな形になっている、そうではない協働というのがあると思いますので。

白川教育長

学びとか場所とか、そういうところで書いていけば、シームレスに探究で育つまちなんですよというような表現だと現実にも合っているかなと。

中村委員長
尾形委員

その他ございませんか。

中村先生のご意見とかぶるところもあるとは思いますが、最初にこれを見たときに図書館の指標というのがボランティアと雑誌スポンサーの拡充というのは若干気になりました。やっぱり教育なので学校がどうしても中心になりますけれども、大人の学び直しということも盛んに言われておまして、それを担うのは公共図書館だろうと思っております。ということ考えると、貸出数が全てではないんですけど、どの程度、市民の方にその情報提供ができていくかという視点というのは必要なのではないかなと。ボランティア数が図書館が取り組んでいる最優先の取り組みではないのかなというようには感じました。

あと、このことが全く分からないので頓珍漢な質問になるんですけども、指標で幾つか子どもたちの意識調査のものが挙がっておりますけれども、高校生の意識みたいな数字が全然なくて、指標とそういう調査がないから小中学生だけになっているのかなとも思ったんですけども、例えば最後のページのイノベーションを担う人材の育成、内容的にはもちろん小学生が取り組むべきとは思いますが、どちらかというところだと高校生とか大学生辺りがターゲット

になってくるような取り組みなのかなという印象を持ったので、そういうところで指標が小学生、中学生の意識だけでいいのかなと、ちょっとそこは疑問に思いました。

中村委員長 お答えを聞く前に今言われた最初の方の図書館の件なんですけど、私も専門員の方が言ってくださったので言いやすいのですが、貸出数に関しては本当に市民の教養レベルとか図書館の機能に関して結構重要なメルクマールなので、ぜひそのところは入れていただきたいと思うんですけど、貸出数が伸びるにはやはり予算をちゃんとかけて本を買わないと駄目なんですよね。一定の額、買わないと本を借りられないのは当たり前なので、価格的にいうと大体、年間に図書は2億円分ぐらいは出版されるので、1割ぐらいは買っただけだと市民の方は非常によく貸し出しをするというような統計値があるので、でも毎年2,000万円使えといっても香美市は破産するかもしれないので、そこまでは言いませんが、できたら購入目標額とか、これぐらいは買いたいと思う金額と貸出数はここに書いていただくと非常にありがたいかなというふうに関係者としては思います。

事務局 はい、分かりました。

中村委員長 後者の方は多分、市の担当教育委員会の管轄区として小中と書いたのだと思うんですけど、いつも言うように、せつかく幼保から大学院まである市なので、その辺りを越えたところをどううまく表現して、その評価を入れて香美市の特色を出して市民に訴えるかというので表現をちょっと工夫なさったらいいのかなと私は思います。そこがあることが香美市にとって、市民にとっての特徴になっているので、それが意識できるような構造にさせていただけるといいのかなというふうに思いました。

福田委員 図書館の課題で、今のでいくと主な施策の④の施策自体もボランティア、スポンサーというのがどんと入っているんですよね。事業もみんな一緒なわけですよね。図書館サービスというのはどういうふうに理解したらいいですか。図書館サービスへの市民の参画という言葉はありあり得ますか。図書館サービスとは、図書館が我々にしてくれるサービス、機能のことが全て、そこに市民を参画させるとしたらボランティアでということになるわけですか。

事務局 これは協働による学びの充実というところが。

福田委員 協働だから働けと。

事務局 協働だからその数字とかがここへ出てきたんだと思います。

福田委員 施策の中にボランティア活動、スポンサーというのがいきなりいますよね。その次の事業名もそうですよね。そしたらそれは最終的に目標はそうなりますよね。

事務局 今考えると協働ではないところに図書館が入ってこないといけないというところが消えてしまっているということかなと。

事務局 すみません、ちょっとこの段階で確認不足なんですけど、当初想定していたときには探求のたくましく生きる人間力のところで探求の場としての図書館

サービスの充実をさせていこうというところを当初目標として、そのために読書活動の推進というところを挙げていく予定にはしておりましたが、今の段階で消えていますので、確認不足で、ちょっとまた見直しをいたします。

福田委員　今のですごくまた不信感の目になったけど、消えているものが他にもあるのではないですか。

事務局　途中の段階であまりにもたくさんの目標、指標が出てきていましたので、新しい目標を絞り込んでいっていた段階があったと。

福田委員　指標から絞ったらいけない。

事務局　施策の方を絞っていた段階があったかと思えますので。

福田委員　途中で消えていましたと言われたらたまらないです。だから完成度は何%ですかと聞いた。

事務局　もともと探求的な読書活動とかいう内容で入れていたんですけど、指標とあまり変わらないみたいな内容だったので、これは探求的な内容なのかみたいなのもあって、ちょっと一遍除けたみたいなことになっています。ご指摘いただいたので何かしら蔵書数とか、そのところは加えて。

福田委員　読書は探求ですよ。それ以外の何物でもないと思っています。読書というのは一番手っ取り早く学べるものだと思って、基本だと思えますのでぜひ。それがあって、ここは協働だからというなら分かりました。

事務局　はい、そういうことです。

中村委員長　基本的な図書館活動で訪問されている人の数と貸出数に関しては、きちっと目標を定めていただいて、あと購入の金額とか、ごめんなさい、しつこく言いますけど。財政支援は基本中の基本なので、それはやっぱり最低限これぐらいは買っていたきたいなど。

福田委員　それは図書館の委員会に出てもらわないといけない話では。

事務局　いつも出ています。1,000万円ですよ。

中村委員長　議会にもぜひ。

白川教育長　種類が少ないというところもありますね。

中村委員長　そういうことなんです。ここに書いてあるような活動が全部、図書館に行けば探せるということであれば、全てのふるさと教育から、それなりの量をやっぱり買わないと、なかなか支援できない。指標をボランティアの件と企業スポンサーのことは書かれてある意味は分かって、うまくいっているということですよ。それをアピールしたいのは分かるんですけど、それはそれで書いていただいて、市民が運営する図書館というのは重要なことなんですけど、専門職員が図書館活動を支えた上で、図書館を市民が協働運営するというのが重要です。ここは明確に分けていただいて、専門の分野というのはそこでちゃんとやっていただかないといけないので。他にございませんか。

中山委員　探求の1つ目の指標のところですけども、最初に教育長さんがごあいさつの中で何回研修に参加しますとか、回数とかではなく、それをもってどういうように向上したか、対象者がどういうように変容したかというようにおっしゃ

っていただいたので、例えばですけれども指標の①の冒頭に接続期カリキュラムの共有見直し100%というのがあるんですけれども、恐らくこういった指標は90%もしくは100%というように到達をすぐしてしまうような目標の1つではないかなと思っていて、それをしたことによって、どう実践とつながったとか、あるいはどう実践が向上したんだというところを問うような形で設定していただけるといいのではないかなというように読ませていただきました。

併せて、ここにはそれほど細かいことは多分書けないと思うので、具体的に書かれる場合にやっていただけたらと思うのですけれども、同じ枠囲みの中の一番下の特別支援担当保育士アンケートの実施の中でも工夫して行ったかというのは、行ったに多分なると思うんですよね。ある程度学んだら私はやったとか、私たちの園では頑張ったよねというようにはなると思うんですけれども、それをもって、じゃあ子どもは安心して園で対象児がということにはなると思いますが、園生活を送れたのかとか、あるいは保護者が園の先生の関わりを学んで子育て等に生かすということができたのかとか、なかなか特性によってはお子さんの変容というのは非常に難しいかとは思いますが、お子さんの大きな変化を求めるといよりは、それによって親子が先生のよい関わりを通して受け取ったものをどう押し量っていくかということになっていくと、内容の充実に行くのではないかなというように思いました。

それと、この項目でいうと、支援の工夫を行いましたかというようにあるんですけれども、ややもすると先生がどう関わったかという直接的な関わりに重点が置かれて保育を見直していくということが行われやすいんですけれども、ここに一言「環境や支援の」とあると、例えば視覚支援はどういうように行ったのかとか、よく特別支援で行われているのは、あなたの場所はここだよというように視覚的に居場所が分かるように、ちょっと工夫するだけで他動的だったお子さんが自分の居場所が明確になることによって、さっとそこへ向かうことができたとかいうようなことがあります。そういうようなものも入れてみると振り返る視点というものが直接的な関わりだけをここは述べているわけではないというようになるのではないかなという期待があります。

そして次の枠囲みの冒頭に読みの調査というところで、5歳児のひらがな、この調査そのものは私はいいと思います。幼児教育イコール興味・関心ということで、どれぐらい習得しているかというのはあまり押し量らないというところもあると思いますが、実際的には興味・関心があるイコール読めたり、書けたりするという、それが正しくなのかというのは小学校以降の教育でしっかりと、というようなどころはあるかと思うんですけれど、これはこれでいいと思うんですけれど注釈が例えばこれだったら必要なかなと思って、手っ取り早く習得させようとする小学校時代に教えれば習得できるというように早合点してしまう。あるいはこれを幼児教育を知らない方が読んでしまうと、なぜあの先生は直接的に指導をしないんだというようなことになってしまうと、これは習い事や小学校教育と変わらない保育が待っているということになって、

幼児教育で求めている文字がある世界は面白いとか、伝わることの喜びとかいうような、あるいはそれを知ることの楽しさみたいなどの重点よりも、「あ」はこうやって書くといいんだよ、これは「あ」と読むんだよとかいうような機械的な教授になってしまうと、そもそもこの幼児期で耕したい文字への興味・関心とはかけ離れてしまうというような危険もはらむので、ぜひこういった指標の場合には保育内容に留意するということについて一言触れていただけると市民の方を交えて広くご理解が図られるかなというように思いました。以上です。

福田委員 今のひらがなのところをじっくり読んでいて、平成30年が一番高く80%弱だった、令和4年で63になったと。どうしてなんですかね。教育が別に何か変えるわけでもない気がするんですけど。

白川教育長 コロナもありまして、非常に保育の現場では子どもたちの身の安全とか、そこに皆さんが、先生方も完全にというところで、子どもたちの顔も小さいですし、顔の表情が見えていない状況で過ごしたというところは大きかったのではないかなというふうに思っています。

福田委員 そういことですか、なるほど、それは分かりました。保育園で字を教えてもらった覚えとかないですけどね。絵本を見たり、かるたとかはしました。それはコロナで変わるのかなと思ったですね。家はどうしているのかというのも思ったんですね。家でゲームさせないで本を読ませていたらいいのになと思うんですよ。

白川教育長 蔵書の冊数は香美市は家庭は少ない割合になっています。

福田委員 そんな調査もあるんですか。

中村委員長 格差がすごいんです。たくさん本がある家とない家。

白川教育長 保育園が1つの遊びを通して本に対する関心を持つというのは、よく頑張っているところではあります。気を付けたいと思います。

中村委員長 お伺いしたいんですが、デジタル教育のことが載っていて、GIGAスクールの推進でいろんな段階でやられているんですけど、5年後の指標が目指す像はどんな図を描いているのか。私の想像するところ、もう3年生以上ぐらいの小中学生は全員、毎日持って帰って当たり前みたいな状況にならないと、先ほど言われたような蔵書数が家庭によって違ったり、裕福で塾に行ってよく勉強できる家庭と全くそういうことができない家庭で格差をなくそうと思うと、やっぱり家にパソコンを持って帰って行って自由に学べる状況をつくってあげるの重要と思うんですけど、指標の構造でいうと5年後にまだその状況になっていないんですかね。

白川教育長 来年には全部持ち帰っていただきたいなと強く思っています。

中村委員長 5年後はもっとできているという状況の指標みたいなものを入れていただいたら、全面に出て、市民の皆さんもご理解が得られるのかなというふうにちょっと思いました。全員持って帰ってくださったらパソコンから本の予約とか

をして貸出数とかも飛躍的に伸びるのではないかなとちょっと思っているんですけども。

事務局 その予約システムが。

中村委員長 早く入れてくださいよ。

事務局 借りられ中に関しての予約しか今やっていない。

植村委員 構いませんか、2つほど。そんな高尚な話では全くないので。中村先生の先ほどの話にもありましたけど、ICTというのは本当にGIGAスクール構想の中で自分たちの教育の在り方というところまで変革していくような大きな導入だったわけなんですけども、自分たちは学校関係者として探求のところとかの項目の中にデジタル技術活用の推進による学習履歴とか教育データの活用とかという言葉はあるんですけども、実際そういうICTの活用による学びについての何か施策的なものというものはどうしても図っていかないといけないのではないかなというふうに思っています。上村先生なんかはご専門だと思えますけれども、ICTを活用する学びの何か取り組みだとか、そういったものも必要になってくるのではないかなというのは思いました。

それともう1つは、単純な質問なんですけど、【協働】のところの①香美市のふるさと教育の推進で2つ目、「地域の財を活用した小小交流会、小中交流会の実施」とあるのですが、ちょっとイメージがわからないんですけど、指標を見てみると総合的な学習なんかにつながって、恐らく地域の財、人、物、そういったものと当然、子どもたちがそういうフィールドの中で学習活動をしていくとあるんですけども、交流会の実施ということになっているんですけど、例えば小学校だったら小学校が交流していくと活動を広げていく、そうした中でふるさと教育を充実させていくということなんでしょうか。それか、指標の中には地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか、というふうなところがこれに該当していくのかなとか思っているんですけども。これはイメージがわかenかったので。

事務局 例えば山田小学校で地域の財を活用した総合的な学習の時間もありますし、同じ山田町内といえども香長小学校、その他の学校によってそれぞれの地域の財の活用というのは違って、ぜひそういった総合的な学習の時間を中心としてそれぞれの学校で学んだことを例えば香長の子どもたちが学べば、それを楠目の子どもたちと一緒に交流を通して共有をしようではないかとか、山田小学校と例えば大宮小学校でもいいと思います。中学校区を超えて学びを共有する、そういった機会を活用することによって、それぞれの地域の財は違うけれども人、物、事を通して学んでいることの中に共通点や、また違いとかを感じながら香美市全体のことについて子どもたちが少し視野を広げ、考えることができるというところを狙ってきたいというところと、あとは総合的な学習の時間が充実すればするほど子どもの育ちというのは、はっきりと見えてくると思っているので、そういったところで先生たちが子どもたちの姿を通して、さらに自校の子どもたちの総合的な学習の時間をいかに高めていけるかということ

ころをまた学ぶ機会にもしていただきたいというところで、このような表記にしています。

植村委員

生涯学習フォーラムなんかはうってつけじゃないですかね。

福田委員

今のところの指標は探求そのものですよね。地域はどこにもないですよね、全国調査の中で。

事務局

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますかというところで。

福田委員

そこだけですよ。もともとこの目標のブロックに探求が一番上にあって、そこで探求の指標を付けなくて、ここに入れてどうするのかと思ったんですけど。

事務局

そこについては、真ん中ごろに入れているんですけど、学校質問紙の中で、前年度までに習得・活用及びというところの部分を入れているのと、やはり探求の過程の中で具体的にどこを見ていきたいかというところで、その上の全国調査の児童生徒質問紙の中で分かったところ、分からなかったことが次の学習につなげているとか、話し合い活動等を通して自分の考えを深めるとか、課題に向けて自分で考え、自分から取り組んでいるとか、このところが特に探求の過程の中でも注視して見ていきたいといったところで、子どもの指標としては挙げています。併せて、学校質問紙でそういう場面を仕組んでいるかというところで入れていくというところで整理をしています。

福田委員

そっちはあるので、こっちを後ろに回したということですね。これは両方にあってもいいのではと思うんです。別に一個だけにしなくても。

白川教育長

それで解決しました。

中村委員長

今のは表現の仕方としてどういうふうにした方がより市民の皆さんに分かりやすくなるかということでしたけど、ご意見を伺ったときにデータとか指標で、その行為そのものをやったかどうかとか、感じたかどうかということだけをここに示すのではなくて、指標のところこれを使って教育そのものの質とか、内容を充実させるというような書き方をさせていただくと、今のもクリアできるようになるのではないかなとちょっと思いますけど、それを子どもが思ったとか、これを使ったということが何につながっていった実践が豊かになったり、教育の質がレベルが上がったりしたかということが多分、分かればいいのかなと思います。

福田委員

あくまでもKPIなだけ。その前に答えをつくっておいたらいいですよ。こういう目標があって、こういうふうな具体的な発想がある、5年後の私たちはこうなっています、こうなっていますがあるから、そのチェックとしてこうですというKPIがあるわけで、間にこっそりもう報告書を書いておいたらどうですか。大学はよくやっているんですけど、最初にもう報告書をつくっておくぐらいの勢いで、言われた瞬間に。それがイメージできれば、そこへ向かっていだけなので、それをどこまで高いレベルか、原点はというと、この理念

にいくんですけど、もうちょっとそれぞれの項目で言葉があってもいいのかなという気がしますね。

中村委員長 他にございませんか。

上村委員 昨日も教育長さんにうちの方に来ていただいて、情報関係の研究発表をさせていただきましたが、今まで取り組んでいてキーワードになるのはクラウドなんですよ。それが今のICT教育のキーワード、office できえ 365 といって、そこへインストールして、ウェブ上でというふうになっているわけで、全てが学校なんか Chrome PC で始まっているんですけど、ここの中に入っている言葉の中で校務の中にクラウドを活用してという言葉を書いています。学習もクラウド、それによって家庭と学校をどうつなぐかというふうな時代になっている。パソコンを途中で落としても安全だという世界になっています。そういうふうなところをイメージをしていながら、3年経ったんだけどこれからはこの先どんなになるだろうと自分はあまり想像ができなくなって、多分この生涯のところでデジタルスキルの講習の実施となっているのも、ソフトの使い方というよりはクラウドを意識した学習になっていくのかなというふうにすごく感じています。このところは本当に未来をつくっていくところが非常に大事にもなっているので、それに探求をしていながらということになるんですけど、その辺りはこういうメッセージというのが出てくるようなものになればいいかなとは思っています。それと、分からなくて言うのではなくて、わくわくする世界がこれからいっぱい待っている、そういうものが振興基本計画で出していけるのかなというふうに思います。

中村委員長 今に関連したようなところで、何か指標を書いてもいいかもしれません。もちろんGIGAスクールの推進の方でやられているでしょうけど、出しやすい基準と、5年後ぐらいまでに香美市が目指すべき像ですかね。当然、次年度から共通テストとかの情報が入って、全員が受けてということは中3と小6のがある、すぐ情報が入って、どれぐらいのレベルかということは問われるようになるのはもう目に見えているので、今言われたようなことを含めて5年後までにはこれぐらいのところというのがあってもいいのかなと思いますね。

白川教育長 そうですね。それをはっきり書いておけば、ちょっと書きぶりが弱いかなとは思っています。

中村委員長 教育委員会の方も学校を支援しやすいんではないですか。

白川教育長 日常化させていきたいという思いもあって、ちょっと弱くなったかなとは思っています。

中村委員長 あとは美術館とか、体育協会さんの方でご意見いただきたいと思いますがいかがですか。

山本委員 美術館の方は【創造】のところに入れていただいていますけど、(2)の③芸術文化にふれあう機会の拡充のところがありまして、今もやっている企画展事業、アトリエ事業、普及活動の充実と美術館が提供するものこと書いていただいているんですけど、先日やっていた市民展のような市民が発表する場

とかにも、提供していたのも結果として市民の方からの発表の場でも結果が返ってくるというか、芸術文化にふれたというのを書いていただけたらなど。ここは提供するものばかりが書いてあるなという気がしました。

中村委員長 結構、遠慮されて言われているんですけど、僕が答えてもらいたかったのは2年後にアンパンマンがNHKのドラマにまたなるので、香美市にチャンスなのに美術館を生かさないでどうするのというような意見を言ってもらえればありがたかったなと思って。どうしてそれを入れないんですかという。今こそ市議会に言って予算が取れるときなんではないですかと。そうすると道の駅とかに人がいっぱい来たり、アンパンマンミュージアムにいっぱい人が来るわけですから、何万人も来たらどうやってお金を落とさせるかとかを考えて、美術館にも寄らせるべきなのではないのかなと思うんですよ。

事務局 もう考えています。

中村委員長 どうして載ってないんですか。

事務局 ここでは載りませんが。

中村委員長 しかも次年度からの案でしょう。そしたら出していただかないと、2年後にドラマは始まりますから、ぜひちょっとよろしくお願いします。佐川町の道の駅、どんなになっているかご存知でしょう。オープンしたとき入れなくて、外に何千人もあふれていたんですよ、そんな状況なんです。ぜひ生かしてください。

事務局 今ちょっと急に降ってわいてきたので、多分、誰も知らなかったことだと。

福田委員 何か、香北の時代はスキップされると聞いているんですけど。後免野田小学校ぐらいから始まると。結果としてはアンパンマンは出てくるので、アンパンマンはあるんでしょうけど、要は佐川の酒屋だったみたいなどころの話は香美市はちょっと弱いみたい。

中村委員長 ちゃんと書いてもらえるように。美術館の活性化のことも含めて、うまく入れていただけるとありがたいのかなと思います。

事務局 一応、企画展はもう、コラボは絶対しようということ。

中村委員長 よろしくお願いします。体育協会の方はいかがですか。

楮佐古委員 だんだんスポーツをする人たちが小学生から大人まで、すごく減ってきているんですよ。この前も香美市のバレーボール大会がもう本当に身内だけのみたいな大会になってしまって、ちょっと衰退してきている、小学校ももちろんスポーツクラブも少なくなっているし、それに向けて何か政策はないかなと思います。

事務局 イベントを通じて代弁する機会を増やしてスポーツをする人間を増やすとか、それぐらいしかないのかなと。実際、前だったらサッカーとか、野球とか、一定のスポーツに集中していたものが、どんどん種目も増えて選択肢も増えたこともあり、なかなか一つのスポーツに人が集まりにくいような状況もあったりもするみたいです。せっかく新しくなった施設もありますので、ふれさせる機会を増やしていきたいなという思いはあります。

福田委員 香美市のスポーツみたいなものはありますか。

事務局 ないです。

楮佐古委員 地域地域ではありましたけどね。物部町の方は剣道とか相撲が強かったし、香北も剣道、バレーボールもやっていた。

事務局 香北はペタンク。

楮佐古委員 ペタンクとか、大人もやっていたりとか。

福田委員 そういのがあったら、ITとか、イェナプラン教育とかあるのだったらスポーツもあってもいいのかもしれないですね。僕の立場からいうと、香美市は野球のまちですと言ってもらったら、すごく助かります。山田高校に野球部をつくってもらったら香美市の子は工科大まで含めて全部、小中高大と全国大会を経験しますみたいな、嬉しいですけど。

市原委員 高知新聞にスポーツを取り上げられるのは野球と陸上なんですね、高知県は。山田高校も今年も全国大会に行く予定ですので35年連続、全国で山田高校だけなんです。これでいったら、香美市で陸上なんかにも力を入れていただけたら、マラソンなんかもやってみてもいいかなと思います。

福田委員 基本的にはそこがないと多分しんどいですよね、いろんなことをやっても。今、おっしゃってくれたみたいに何か身内の大会みたいになってしまうというのは分かる気はするし。

中村委員長 時間が来ているんですけど、今のスポーツ、美術館の件に関してはちょっとまだアイデアが不足していますね。少し練って項目と表現を考えていただけたらいいのかなと思って、できれば中学校とかの部活の問題で地域間の問題もいろいろ言っていますけど、労働時間短縮の問題と地域のスポーツの活性化の問題、両方を解決できるようなシステムがどういうふうになるのかというようなことを考えて、大学まであるわけですから、そういうところのスポーツが活性化するような構造をどういうふうに入れていくかをちょっと構想してもらったらいいのかなと思います。工科大の例えばバレー部とか陸上部が中学校とかで教えたりとかというのは何回かありましたよね。そういうのも含めていろいろあるべきではないのかなと思うんですけど。あと、お年寄りが結構、健康を維持するために、うまくその機会を利用できるようなものと、今言ったようなことがタイアップできるようなシステムを少し入れていただけるといいのかなと思いますけど、ちょっと表現を工夫していただければと思います。

では、時間も大体予定のところに来たと思いますので、教育長の方からその他のところでお願いいたします。

白川教育長 時間が大分来ておりますけれども最後に2点ご意見をいただきたいところがございます。先ほど机の上に「香美市よってたかって教育」の後期計画をお配りさせていただいております。実は10月の9月議会におきまして、こういうご質問がございました。「よってたかって教育」の「よってたかって」という言葉は標準語的に考えると非常に悪いイメージの言葉ではないかと。子どもも「よってたかって」というのはいい意味だと思って成長してしまうのではな

いかといったようなご意見が出されまして、「香美市よってたかって教育」を前面に出して次の教育振興基本計画もやる方向性なのか、できたらもうそこはあまりそういうことを表に出すということについては慎重にやっていただきたいというご意見が出ておりました。私もそれは考えたのですけれども、代わりになる香美市市民みんなで協働して育てていくということを概念化できるような言葉があればいいのですけれども、というところでちょっと困っております。

福田委員 誰ですか、そんなこと言うのは。

白川教育長 たまたま議会ではそういうご質問をいただきましたけれども、それ以外にも個人的に。

福田委員 その人たちは生粋の高知県民ですか。よそから来た人ですか。

白川教育長 いいえ、純粋な。

福田委員 よってたかってというのは悪いイメージは僕にはあまりないんですけど、どうなんですかね、皆さんは。

白川教育長 ぜひご意見を。

福田委員 12 ページに、要はアンケート調査で小学校の保護者が一番知っているのは「よってたかって教育」と。ここまでみんなに浸透させておいて今さら何を言ってるのかというところなんですよ。

白川教育長 概念というのは表紙の下にまとめられておりますけれども。大変力強い。

福田委員 その人は1名だけですか。議会総意で言われたら私たちも考えますけど、たった1人のおじさんかおばさんか知りませんが、のために変える気はありませんと僕は言いたいです。言ってもいいのかな、僕は社会教育委員として言っているですよ。「よってたかって」なんです。今さらですよ。議会の議事録は公表されていますよね。ホームページを見たら分かりますね。分かりました。

白川教育長 ただ、その議員さんもお一人の意見というよりは、そういうご意見を言うてくださる方がいての代表としてご発言があったというところです。

福田委員 それを議会で一致して議決するのなら従います。

白川教育長 どうしますかと言われてまして、今後検討してまいります、で帰ってきております。

福田委員 いろんなところで聞いたら、いい言葉だとみんな言いましたということをおっしゃってください。

上村委員 この言葉が決まったときにずっといたので、毒があるという言葉もそこで出てきました。でも、みんな、下に意味も書いていますけど、こういうことで教育をつくっていきたい、実はキャリア教育を説明するのに、この言葉をつくっていったというふうに自分は覚えています。それで、やっぱり耳に残る言葉で、これだけ多分残ったのだと思います。毒のある梅原さんも中にいたので、梅原さんは東京でしきりにこれを本当にいい言葉だといってずっと宣伝もし

てくれますし、これだけ本当に地域に根付いた言葉はないのではないかというふうには自分は思っております。

白川教育長
中村委員長

ありがとうございました。

今日答えが出ることではないと思うんですけど、「よってたかって」という言葉は意味そのものは別に悪い意味とか、いい意味とかいうものではなくて、基本的には一斉に何かをやるというときに使う言葉だという意味しか国語辞典等を引くとないので、悪い意識を持たれている人は別の意味で使われているときに、そういう引用をされていたんだろうと思うので、その言葉の意味そのものは先生はご専門なので説明されたいと思うんですけど、上村先生がおっしゃったみたいに香美市の持っている特性、幼保から大学院までであるという、どの場所でもあらゆる機会に教育を受けられる構造というのを一言で表すために、どういう言葉がいいかというのを考えたときに出てきたんですよ。そのとき私もまた多分、議長をしていたと思うんですけど、随分前のことなので、全部の経緯とかを覚えていないんですけど、それで結構、定着しているということは、語呂もよくて一定の意味はあったのだと思うんですね。議会が言っているような意味でどうするかということではなくて、これよりもっといいフレーズがあるなら、そういうスローガンを使えばいいんだけど、出てこなかったら仕方がないことですよ。それをちょっと考えると、次の会議ぐらいまでということにしておいたらいいのかなというのが私の意見です。

白川教育長
中村委員長
事務局

ありがとうございます。

よろしいですか。では、中山さん、進行をお返しします。

中村先生、どうもありがとうございました。それでは、事務局から1つ事務連絡をお伝えいたします。次回の会議につきましては、12月の開催を予定しております。その際に第2期教育振興基本計画素案につきまして、ご報告をさせていただき予定でございます。日程の調整をご連絡させていただきますので、ご臨席を賜りたく、よろしく願いいたします。

それでは、閉会にあたりまして、教育長からごあいさつをお願いします。

白川教育長

失礼いたします。もう8時を10分も回ってしまいました。皆さまのご協力で非常に実りのある深い議論を重ねていただきましたことを心から感謝を申し上げます。蛇足になりますけれども、今回の計画の中には基本的な生活習慣を再度見直していきましようということで入れ込みました。前回入っていなかったんですけども、ここをしっかりと入れ込まないと、就学前教育からずっと育っていく過程が非常に厳しくなっておりますので、この点につきましても今後ともまたご意見もいただきたいと思っております。「よってたかって教育」につきましても貴重なご意見をいただきましたので、今後どうぞよろしくお願いをしたいと思います。本日は本当にありがとうございました。お気をつけてお帰りくださいませ。ありがとうございました。

閉会